

(様式1)

自己評価票

作成日 平成25年9月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873800718		
法人名	株式会社 モデナ・ケアサービス		
事業所名	グループホームわかぐり	ユニット名	GH3F
所在地	〒300-0334 茨城県稲敷郡阿見町鈴木136-3		
自己評価作成日	平成25年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	
-----------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・グループホームわかぐり3階は、家庭的な環境のもと、身体的・精神的に拘束を行わない安心した日常生活が出来るよう支援している。・敷地内には、自家菜園で季節の野菜作りや収穫を利用者とともにやり、安心・安全な食材を食している。・夜勤帯基準では、スタッフ2名のところ3人体制で行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の運営理念を明文化し、各職員の名札の裏に理念を印刷して入れて、いつでも確認できるようにしている。毎月のカンファレンスで、理念に沿ったケアの方針を検討し実践につなげている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアと定期的に交流を行い施設の役割や理解を図っている。地域夏祭りには参加し、施設納涼祭へ参加して頂くなどの交流をしている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて地域の方々との交流や、地域育成会の廃品回収に参加。事業所での廃品物の提供を毎月行っている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催することにより、ご本人・ご家族の施設への要望、意見交換等の情報交換や、詳細な介護情報を提供したりすることでサービスの向上を目指す取り組みを行っています。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本部スタッフが、定期的に町の担当者を訪問し相談や助言を仰いでいる。また、運営推進会議に町の担当者に参加して頂き施設での取組みを伝えながら施設の発展に協力して頂いている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては、管理者含め本部職員が常に教育している。止むを得ず、必要場合には最低限に止め、利用者様、ご家族の理解や書面で承諾を頂いている。また、拘束委員会の開催の中で検討し拘束のないケアに向け取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の為、勉強会の実施をしている。また、ユニット管理者や本部職員は職員との信頼関係の構築に努め相談しやすい環境づくりに徹し、常に情報の収集をしている。また、ご家族が混乱しないよう現状を話すなど連絡をしている

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護相談員の訪問をお願いしたり、町の担当職員にその都度相談している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、ご家族が納得できるまで重要事項や運営規定等を解りやすく説明している。その理解を得られた上で契約の締結を行っております。また、疑問や質問には随時対応できるよう体制を整え、不安の解消に努めている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者、家族の意見を日常的に話し合い改善していけるよう心掛けている。また、意見箱の設置や運営推進会議で意見や要望をうかがっている。意見や要望のあった場合にはスタッフ間で話し合いサービス改善に努めている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを設けており、その中で職員との意見交換を実施している。また、管理者は職員が話しやすい環境づくりに努め、常に職員への声掛けを行っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表取締役（法人代表者）は月1回の施設長会議や月数回の巡回時に職員個々の状況把握に努めている。また詳細まで把握できない部分については施設代表である施設長が随時報告を行い体制を整備し役職の昇進や資格取得の奨励し評価している。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は現在年数回にわたり新人職員の研修会を実施している。また、月に1度の定期的な勉強会を行っている。若手・中堅職員についても管理者が職員個々の力量を把握し個別の指導を行っている。また、外部研修の参加もできる様、掲示している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設長は管理者等にコミュニティの大切さを指示し、3か月に一度、近隣のグループホームと交流や意見交換を行いサービスの向上に繋げている。また、交流会で各施設の見学が出来るよう毎回場所を変えている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的には入所前に利用者本人と、ご家族にアセスメントを行っており、その際には不安な事や要望等に対して伺い安心出来る様努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の通りであるが、サポートしていく中で本人・家族との信頼関係を構築しています。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメント時にある程度の情報は収集しており、その情報を基に本人へのサービスを提供している。また、管理者は施設ケアマネージャーと連携を図り利用者と家族に最良のサービス提供が出来るよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒になって行う等、家庭で行っていたことを利用者自身で行って頂いている。そのサポートを職員が一緒になって行うことで共同生活しているという事を位置付けている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	上記の通りであるが、本人をサポートしていく中で家族への報告や会話を大切にし信頼関係を構築しています。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族の希望時には個別での外出介助や面会が出来る様態を整えている。また、手紙の代筆や電話できる状況であり、馴染みの人との面会はいつでもできる様配慮している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者の状態を把握することで、利用者同士が関わり合いを持てるよう性格に合わせ話題提供をするなど環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その方の状況に応じた形で、面会や家族の相談等もうける態勢を整えている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人が希望を表し、意思決定出来る様な環境づくりを心掛けている。困難な利用者に対しては、カンファレンス等で本人本位に検討するよう心がけ、ケアを進めていけるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて生活歴等を伺い把握している。看護サマリー等、個人ファイルで整理している。情報の少ない利用者によっては、本人・家族等に聞く等して徐々に情報の収集に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を観察し、個人ケースに記録しながら、体調の変化や有する力（現状・可能性）の把握に努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の様子観察を行い、カンファレンス等で検討している。必要時には、本人や家族に話を聞き、医師などの各関係者に相談し介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録等にてケアの実践記録を残している。また、温度版下にケアプランの実行状況、改善点を記入し職員全員が現状に即して計画の見直しや、介護計画の見直しに反映させている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本部スタッフや隣接施設の看護師・他のフロアスタッフの協力を得ながら、状況に応じた柔軟な支援ができる様態を整えている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を図ることで、利用者の生活の楽しみに繋げている。ボランティア見学や施設納涼祭などでは育成会と盆踊りを楽しむなどしている。また、地域の行事やアウトレットなど積極的に参加出来る様支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時やその他変更等が生じた場合でも柔軟に対応している。隣接の有料施設に看護師が常駐しており緊急時には適切な対応ができる態勢を整えている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している有料施設の看護師の協力を得ながら適切に対応している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病棟や医療連携室とも連携を図り、ご本人の状況を一番に考えた形で考えている。また、状況把握に努め、有料施設の看護師と相談しながら早期退院が出来る様、病院関係者との話し合いや協力・調整が得られるよう努めている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を尊重し、有料の看護師や医師から専門的な知識や助言を受けながら方針を決めている。しかし、施設の意向として看取りは行わない方針である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防所等が実施している救護訓練に参加している。また施設内でも看護師を中心に勉強会を実施緊急時対応マニュアルを作成している。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回の避難訓練を通じて、災害時の対応を身につけている。また地域の協力が得られるよう運営推進会議などでもお願いしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重し、否定せず傾聴しながら会話や声かけを行うよう心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、本人の思いを酌み取り、出来るだけ自己決定できるように働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記のことを常に頭に入れたうえで、利用者本位の考え方で接している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出・行事・季節に合わせた、個々のおしゃれが出来る様支援している。また、希望に応じ移動美容室の利用などしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者本人の体調や身体状況にも異なるが、好みの物をメニューに取り入れる等している。片づけなど職員と一緒に無理せず行うようにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態・量、水分摂取量は1日のチェック表でチェックし、個人ケース記録の温度版下記入欄に再度記入することで再確認している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。個々の状況に合わせ、出来る限り本人に実施して頂けるよう声掛けしサポートしている。また、義歯使用の方は毎週水曜日にポリドントを使用し洗浄・消毒している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄状況、パターンを把握し声掛け誘導をおこなっている。また、排泄状況・計画をカンファレンス等で話し合い自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に野菜や乳製品を多く取り入れ、水分補給に気を付けている。利用者の状況により薬でのコントロールもあるが、入浴時の腹部マッサージや体操、散歩などを取り入れ個々に合わせた対応をしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望や体調を確認した上で入浴支援を行っている。ただし安全面を考えた上で夜間帯の入浴は中止している。日中帯での入浴は利用者の要望を出来るだけ受け入れ気持ちよく入浴できるよう努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の余暇を楽しく過ごす工夫や、本人の訴えを傾聴しながら不安の解消に努めている。家事の手伝いなど無理なく行い、体を動かす事でゆっくりとした休息・安眠を促す努力をしている。また、外気浴や散歩などで気分転換も行っている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現病歴、既病歴を確認したうえで、服薬説明書にて、目的・用法・副作用について確認を行っている。また、いつでも確認できるように服薬説明書のファイルを作成している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者毎に得意だったこと（掃除・洗濯・園芸）を実践していただくように声かけしスタッフと共に行っているまた、本人の負担にならないよう定期的に意見を聞きながら改善、修正をおこない役割や楽しみ支援をしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意見を聞きながら、外食や行事で外出の支援を行っている。また、家族や友人との外出希望時には調整や支援の態勢を整えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人・家族と取り決めた方法で支援している。また、出納状況を報告している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人・家族と取り決めた方法で支援している。また、本人の希望時には、手紙の代筆や電話をかける事ができる態勢を整えている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気になるよう、季節に合わせた装飾や花を飾るなどしている。ベランダには、季節の花や野菜の苗をプランターで育て季節を感じられる工夫をしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースにソファやテレビを置き自由に過ごせるよう工夫している。冬などは、畳にコタツを置くなど、ゆっくり過ごす居場所作りをしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内のレイアウト等は、本人・家族の意向で行っている。また、入居時には馴染みの物や家具・寝具などを持ち居心地よく安心して過ごせるよう相談・アドバイスしながら支援している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や、浴槽内の滑り止めマットやバスボードの使用など、各利用者に合わせ対応している。居室の表札やトイレ等、各所に表示を配慮し本人が安全で快適に、できるだけ自立した生活が出来る様、働きかけ環境づくりをしている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない